

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

イグサシンムシガの越冬調査結果（技術情報第 18 号）について（送付）

3 月 26 日に八代地域で実施したイグサシンムシガ越冬調査の結果及び防除対策を下記のとおり取りまとめましたので、指導の参考にして下さい。

発蛾最盛日の予測は平年とほぼ同じ 4 月 18 日。
越冬世代密度は平年比やや多。
密度の高いほ場が一部あるため、ほ場内の発生状況に注意する。

記

1 調査結果の概要

越冬世代の発生量 平年比やや多
越冬世代成虫の発蛾最盛日 平年並

- (1) 幼虫及び蛹の発生密度は、6.7 頭/10 m²(平年 2.7 頭/10 m²)と平年比やや多の発生であった。なお、一部に密度の高いほ場も認められることから、ほ場内の発生に注意し、第 1・2 世代幼虫を対象とした防除を実施する(表 2、図 1)。
- (2) 越冬世代成虫の発蛾最盛日は、平年(4 月 17 日)とほぼ同じ 4 月 18 日と予測された。(表 1)。

2 防除対策

- (1) 4 月の第 1 世代幼虫の防除を徹底することで、「長イ」を加害する第 2 世代幼虫の発生を抑えることができる。
- (2) 防除適期は、粒剤が発蛾最盛日、液剤及び粉剤が発蛾最盛日から 7 日後である。なお、気温が低くなると羽化がばらつくので、発蛾最盛日から 7 日間隔で 2～3 回の防除を行う。
- (3) 予測される発蛾最盛日は、今後の気温により変動し、地域によるばらつきもあるので、ほ場をよく観察するとともに、予察灯への飛来状況に注意して防除時期を判断する。

※今後のイグサシンムシガに関する情報（積算温度による発蛾最盛日予測、予察灯データ）については、病虫害防除所のホームページ（<http://www.jpnp.ne.jp/kumamoto>）に随時掲載しますので御覧下さい。

表 1 越冬世代の蛹化率および発蛾最盛日

	蛹化率	発蛾最盛日
本年	16.9	4 月 18 日
昨年	33.3	4 月 16 日
平年	19.3	4 月 17 日

注) 蛹化率：調査区外の幼虫、蛹数も含めて算出

発蛾最盛日：50%蛹化率+16.7 日(蛹期間の平均気温が 18℃の場合)

50%蛹化日：(50%－調査日の蛹化率)÷蛹化の増加率+調査日－31 日

蛹化の増加率：5%(1 日平均)

表2 イグサシムシガ越冬調査結果

(調査年月日：平成27年3月26日)

No.	市町村名	地点名	調査株数	被害茎数	幼虫数	蛹数	合計	頭数/10m ² (幼虫+蛹)	茎数/株
1	八代市	野崎	100	0	0	0	0	0.0	43.0
2		文政	100	0	0	0	0	0.0	27.2
3		内田	100	0	0	0	0	0.0	53.8
4		有佐	100	1	1	0	1	2.8	59.0
5		平和	100	0	0	0	0	0.0	37.0
6		金剛	100	14	9	0	9	25.2	65.0
7		高田	100	10	9	3	12	33.6	57.0
8		日奈久	100	0	0	0	0	0.0	24.4
9		郡築7	100	4	2	1	3	8.4	61.2
10		昭和	100	2	2	0	2	5.6	57.0
11		北新地	100	1	1	0	1	2.8	47.6
12		古閑浜	100	6	2	4	6	16.8	53.2
13		龍峯	100	0	0	0	0	0.0	62.4
14		太田郷	100	1	1	0	1	2.8	43.0
15		西牟田	100	4	1	1	2	5.6	24.4
16		新牟田	100	3	1	0	1	2.8	49.8
17	氷川町 (旧竜北町)	若洲	100	6	5	1	6	16.8	56.2
18		鹿野	100	2	2	0	2	5.6	40.6
19		網道	100	0	0	0	0	0.0	35.0
20		野津	100	2	2	0	2	5.6	46.0
計			2000	56	38	10	48	6.7	47.1

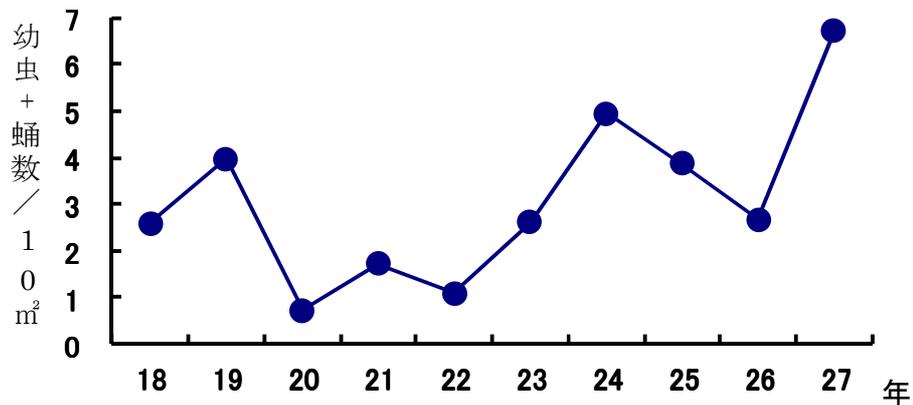


図1 イグサシムシガの越冬世代幼虫・蛹密度の年次推移

問い合わせ先 熊本県病害虫防除所
(生産環境研究所)
担当：清永
TEL:096-248-6490